

ISDA® JAPAN MONTHLY UPDATE

2017年4月

コミッティ活動

REGULATORY: 担当 森田 (tmorita@isda.org)

Risk & Capital

4月13日、ISDAのMark Gheerbrant（リスク・キャピタル部門ヘッド）が金融庁、日本銀行それぞれと面談を行い、バーゼル規制最終化に向けた、FRTB、CVA、SA-CCR、レバレッジ比率、安定調達比率等についての問題点や最終規制の本邦への導入について意見交換を行った。

日本円ベンチマーク・フォールバック・ワーキンググループ

4月24日、当該ワーキンググループの3月27日のミーティングの議論の確認と、USD及びGBP/EUR/CHF ベンチマーク・ワーキンググループにおける3月27日と4月11日の電話会議、および4月3日のミーティングでの検討内容についてアップデートを行った。メンバーはアップデートされたそれぞれのワーキンググループの状況について、自由に意見交換を行った。

4月24日のミーティングでは、OIS-LIBOR spread に関して、日本円ベンチマーク・フォールバック・ワーキンググループのメンバーが、スプレッド平均の計算根拠、計算期間の選定、レート運営管理人としての役割、レート提示プロセス、中央銀行の関与など、多様な観点から、グローバルでの議論とアプローチに歩調を合わせて、十分に実現可能であると考えられるかどうかについて、重要な論点となった。これらの点について、メンバーが各社内で議論を行った上で、再検討することになった。

COLLATERAL: 担当 森田 (tmorita@isda.org)

Collateral Committee

4月17日、Japan Collateral Committee が開催され、今後予想されるオペレーション上の節目となる点、又は異なる角度など、多様な問題点についてアップデートが行われ、テーマ毎のカテゴリー別に、以下の議論が行われた。

- 1) 2017年3月1日に開始となったVM Big Bang への業界内の準備と計画（CSA交渉と社内での方針に関連する諸問題を含む）。
- 2) VM Big Bang 開始後の影響分析に基づく、オペレーション上の注目点。
- 3) dispute resolution processの明確化とIM最適化へのアプローチ方法を含む、今後のシステム向上と業務効率改善を目的とした戦略。
- 4) 移行期間の救済策、コンプライアンス上の代替策に基づく規制上の影響

メンバーはまた、現在直面している予想外の問題点について、他のメンバーに解決方法を求め、オープンな議論を行った。

東京市場参加者向け担保サーベイ

Japan Collateral Committeeメンバーを対象に2017年度の年次サーベイ、「東京市場におけるOTCデリバティブ取引の担保化に関する市場調査（2017年3月末）」を依頼した。サーベイの目的は、特にVM規制（いわゆるVM Big Bang）導入後の本邦市場で活動するデリバティブ・ディーラーとエンドユーザー間での市場慣行の変化について、有益な情報を得るためのものである。回答期限は4月21日。

DATA & REPORTING: 担当 : 洞口 (khoriguchi@isda.org)

4月13日、26日の両日、ISDAは、3月に続き、グローバルでの共同電話会議を開催した。会議は、3月13日に[Proposed Governance Arrangements for the Unique Transaction identifier \(UTI\)](#) について金融安定理事会 (FSB) が公表した[ガバナンス協定案](#)に対して、業界のコンセンサスを得て、ISDAから回答を提出するための情報収集を目的としている。回答期限は5月5日。

コミッティ並びに作業部会会合/コンファレンスの予定

JPY Benchmark Fallback Working Group 5月22日
(日本語による会議)

ISDA 32nd Annual General Meeting - Lisbon
EPIC SANA LOSBOA 5月8日-11日

Understanding the ISDA Master Agreements Conference
Regulatory Changes and Impact on ISDA Documentation Including Japanese Issues 6月14日
(日本語によるコンファレンス)